

東国文化の中心だった 古代群馬の謎に迫る

東国文化とは何か？なぜ群馬が中心だったのか？
地元出身の女優・手島実優が、各地の史跡を訪ね歩き、
東国文化の謎を解き明かし、自らのルーツに迫る。

上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録や、綿貫観音山古墳出土品の国宝指定など県内外で東国文化への関心が高まっている。群馬で生まれ育ち、地元を中心に活動する女優・手島実優さんが旅人となり東国文化にまつわる物語を知るため、国宝が出土した観音山古墳と群馬県立歴史博物館を訪ねた。

「子どものときに古墳に行きました。でも、東国文化という言葉は初めて聞きました。どういうものなんですか？」（手島さん）

「東国文化とは1500年ほど前、古墳時代から奈良時代にかけて現在の関東地方で栄えた文化のことです。当時、東国文化の中心地として栄えたのが群馬でした」と説明してくれたのは群馬県立歴史博物館の特別館長・右島和夫さん。当時、日本の中心はヤマト王

権があった奈良や大阪。なぜ、東国文化の中心が群馬だとわかるのか？「それは古墳や遺跡が教えてくれます」と右島館長。

県内にある古墳の数は大小含めると1万3000基以上。特に注目されるのが前方後円墳。大型の前方後円墳はヤマト王権の許可がなければ造ることができない特別な存在だ。「この綿貫観音山古墳も前方後円墳で全長97mですが、群馬には100m以上ある古墳がたくさんあります」（右島館長）。

ほかにも大陸からもたらされた金銅製品、当時の最先端技術であった馬や鉄の生産など、そのころの群馬の経済的な豊かさや先進性を証明する遺産が県内の随所に残っている。「そんな事実から、群馬が東国文化の中心だったとわかるのです」と右島館長。

「中央にある三人童女という埴輪も綿貫観音山古墳にあったものです。これも大陸の影響を受けてますね」（右島館長）。



「天井は大きな石ですね！」（手島さん）。「22トンもあるんですよ。かつてこの天井が崩れたおかげで、この古墳は盗掘を免れたんです」（右島館長）。



昔は本当に馬がたくさん
いたなんて知らなかった！

「でも、どうして東京じゃなく群馬だったのかな？」。旅人に生まれた新たな疑問に右島館長が答える。「東国文化の中心が群馬だった理由は、自然環境にあります」。群馬は山に囲まれていて、幾筋もの川が平野部に流れ込み、農業にとって最も大切な肥沃な土壌と豊富な水を供給した。そうした中から有力な豪族が生まれてきたという。「力をもった豪族は、朝鮮半島など大陸との交流も積極的に、灌漑用水を利用した大規模な農業を行い、ますます勢力を拡大していききました」（右島館長）。

当時、日本列島の政治・経済の中心だった近畿地方を治めていたヤマト王権は、東国で力を持った豪族と同盟を結び、関東、東北へも影響力を伸ばしてきた。特に群馬では、5世紀後半から馬の飼育と生産が盛んになり、上質な馬を畿内へ供給する

ようになった。こういった有力な豪族の存在が群馬を東国文化の中心たらしめた要因だ。古墳時代が終わり、律令制の下で全国68カ国を4等級に分けた際に、現在の群馬県地域にあたる上野国が13カ国しかない最上級の「大國」に分類されるなど、その後も東国の中心としての繁栄が続いた。

「外国人がたくさんいたなんて、現在の群馬にも通じるところがありますよね」と右島館長。「古墳時代は群馬にたくさん馬がいたなんてびっくりです！いろいろなことがわかる古墳や埴輪をもっと見てみたいですよ」と手島さん。東国文化にさらに興味をもったようだ。

旅人

Profile
女優
手島実優（てしま・みゆう）
1997年生まれ。前橋市出身・在住。映画、舞台、CMなど地元を拠点に活躍する注目の女優。

古代群馬の年表

奈良	飛鳥 (終末期)	古墳 (後期) (中期) (前期)				弥生	縄文	旧石器
741年 上野国分寺造営へ	726年 金井沢碑が建てられる	711年頃 多胡碑が建てられる	681年 山上碑が建てられる	7世紀 仏教文化の波及 古代寺院建立始まる	6世紀 榛名山が二度噴火	5世紀 天神山古墳 お富士山古墳	4世紀 古墳の築造が始まる (中期までの埋葬施設は竪穴系)	約三万年前 ナイフ形石器・尖頭器を使用
上野国分寺跡	金井沢碑	多胡碑	山王庵寺跡	観音塚古墳 観音山古墳	黒井峯遺跡 掛甲の武人 大室古墳群	保渡田古墳群 金井東裏遺跡	前橋天神山古墳	岩宿遺跡



群馬県立歴史博物館の展示室。

古墳や埴輪を見て 当時の暮らしを想像する

「右島館長、古墳や埴輪を見る
ときのポイントは何かですか？」
「古墳なら形と大きさですね。
古墳にはいくつもの形があり、
群馬県内では前方後円墳の多さ
が目立ちます。大型古墳の上位
100位までに5つの古墳が
入っていて東日本では最多です」
と館長。



観音山古墳から出土した巫女の埴輪（群馬県立歴史博物館保管）。スカート風の衣装に大陸の影響を垣間見られる。国宝。国(文化庁)所有。

語り部

群馬県立歴史博物館
特別館長
右島和夫さん
専門は古墳時代。群馬
県職員として長年、文
化財保護に関わってき
た。平成28年より同
館館長、令和元年より
特別館長を務めている。



上/観音山古墳の築造当時の姿を再現したジオラマ。中/食料にも恵まれた豊かな風土が東国の中心となった一因。下/馬具の副葬品が多いのも群馬ならではの特徵。

かも推測できる。「綿貫観音山古
墳からは、冑や帯、馬具など朝鮮
半島とのつながりがわかる副葬品
がたくさん見つかりました。石室
も珍しい大陸風。そのことから大
陸と関係が深かった人の古墳だっ
たことがわかります」と館長。

輪の配置などから当時の生活様式
や儀式を見てとれることもあると
いう。「綿貫観音山古墳の人物埴
輪の衣装や装具は大陸の影響が色
濃く表れています。当時にすれば、
かなりハイカラだったと思います
よ(笑)」(右島館長)。

古墳や埴輪をさらに身近に感じ
るようになった手島さん。最後に
右島館長が大切なことを教えてく
れた。「農業、文化、文字など先
進文化や技術の導入、渡来人との
盛んな交流、埴輪を精巧に作るも
のづくりの技術。現在の群馬に共
通するものはありませんか？ 東
国文化は、まさに群馬県民のルー
ツなんですよ。」「本当ですね！ 東
国文化は私たちのルーツなんです
ね！でも、どうして群馬に渡来人
が多かったのか？ どうやってたく
さんの埴輪を作ったのか？ そもそ
も群馬にはいつから人が住んでい
たのか？ 東国文化についてもつと
知りたいです」と手島さん。「県
内には、東国文化に詳しい研究者
がたくさんいます。まさに、東国
文化の語り部です。訪ね歩いて、
いろいろ教わってみてはどうで
すか？」(右島館長)。



東国文化は群馬のルーツ。 大切に守っていききたい

東国文化を解き明かす 7つの物語と謎

- 1 古墳
古墳大国・群馬
その誕生と発展
P5
- 2 埴輪
群馬の埴輪は
質も量も全国屈指
P9
- 3 噴火
甲を着て見つかった
古墳人の正体は？
P13
- 4 副葬品
豪華な副葬品から
何がわかるのか？
P15
- 5 上野三碑
石碑は誰に何を
伝えているのか？
P17
- 6 天平文化
上野国分寺七重塔は
約60mの高さ!!
P19
- 7 旧石器時代
旧石器時代は
群馬で発見された？
P21